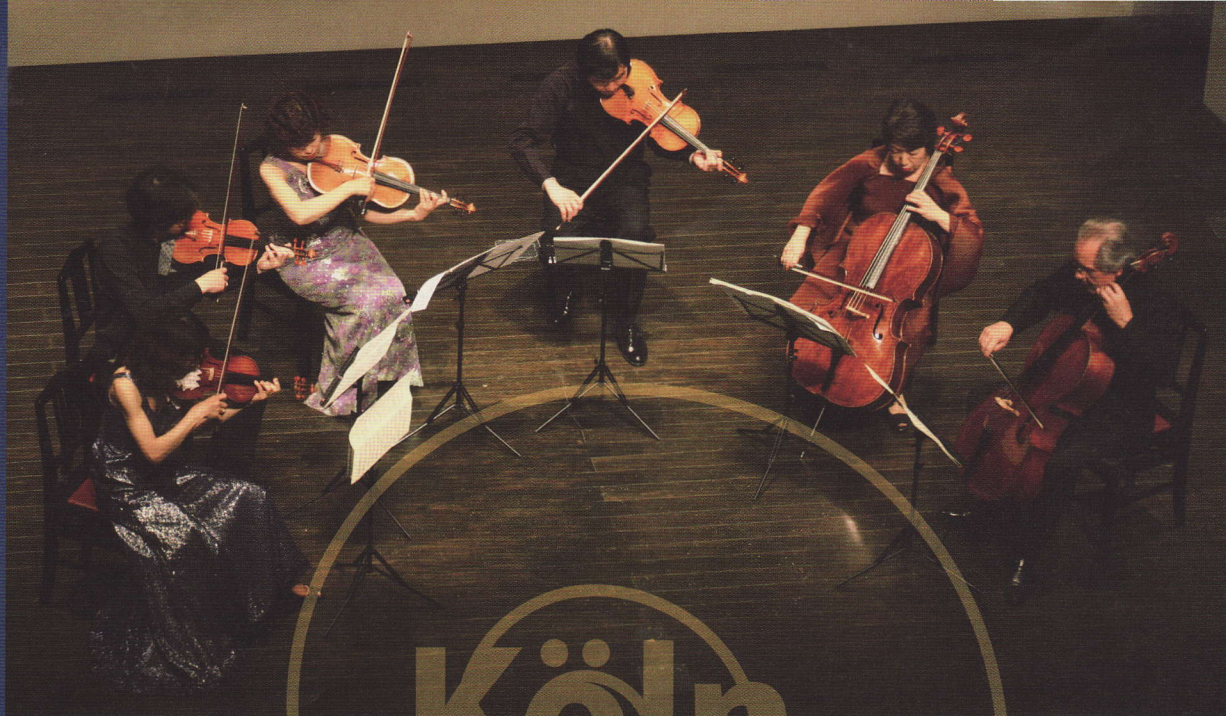




Köln

愛知県立芸術大学 芸術創造センター 主催事業
アーティスト・イン・レジデンス 2010

インターカレッジ・プロジェクト No.3

ケルンの風 II

—ケルン音楽大学 クラウス・カンギーサー教授を迎えて—
シューマン、ショパン生誕200年

クラウス・カンギーサー教授と愛知芸大教員陣による大学間交流演奏会 II

プログラム

シューマン：アダージョとアレグロ 変イ長調 Op.70
R.Schumann : Adagio und Allegro As-Dur Op.70

ショパン：チェロソナタ ト短調 Op.65
F.Chopin : Sonate für Violoncello und Klavier g-moll Op.65

クラウス・カンギーサー(チェロ)、加藤美緒子(ピアノ)

シューベルト：弦楽五重奏曲 ハ長調 D956 Op.post.163
F.Schubert : Streichquintett C-Dur D956 Op.post.163

白石禮子、桐山建志、百武由紀、クラウス・カンギーサー、天野武子

日 時：2010年10月9日(土) 開場18:00 開演18:30

入場料：一般2,500円(当日3,000円) 学生1,000円 全席自由

会 場：三井住友海上しらかわホール

主 催：愛知県立芸術大学芸術創造センター

企 画：愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻弦楽器コース

後 援：ドイツ文化センター / ドイツ学術交流会(DAAD) / 駐日ポーランド共和国大使館ショパン2010

協 賛：ルフトハンザドイツ航空



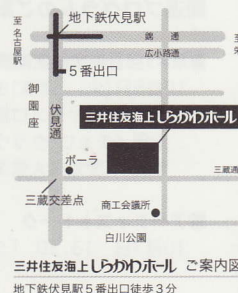
DAAD



Lufthansa

チケット取り扱い：チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:112-057) 電子チケットぴあ pia.jp / 愛知県立芸術大学芸術情報課 0561-62-1180
しらかわホールチケットセンター 052-222-7117 / 愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430

お問い合わせ：愛知県立芸術大学芸術情報課 0561-62-1180(代表) 未就学児のご入場は、ご遠慮ください。





Claus KANNGIESSER (Violoncello)
クラウス・カンギーサー (チェロ)

オルデンブルグ(ドイツ)に生まれる。

国立ハンブルグ音楽大学でフォイヤーマン門下のハインリッヒ・シューヒナーに師事した後、DAAD奨学生としてジュリアード音楽院(ニューヨーク)に留学、ツァラ・ネルソヴァのもとで研鑽を積む。またガスパール・カサド、パブロ・カザルス、ユーディ・メニュイン卿、ルドルフ・ゼルキン等、偉大な芸術家たちの素晴らしい人間性に触れ、インスピレーションを受ける。

1964年ベルリンで開催された第1回「青少年音楽コンクール」での優勝を皮切りに1967年ARDミュンヘン国際コンクール、1968年モリス・レーブ・コンクール(ニューヨーク)、1970年ユネスコ・コンクール(パリ)など数々の国際コンクールで入賞。これにより彼は、ユーディ・メニュインとブラームスの二重協奏曲を演奏する機会を得る。

その後世界の主要オーケストラとのコンサート活動を活発に行い、A.ドラティ、M.ロッシ、H.シュミット・イッセルシュテット、St.スコヴァチェフスキー、P.デルヴォー、チャールス・グロブス卿、P. ルツィツカ等、名だたる指揮者たちと協演を重ねる。

スポレート、ナポリ、マールボロ、ベルリン、ボン、シュレースヴィヒ・ホルシュタインなどの国際音楽祭に客演し、聴衆を魅了。室内楽奏者としては1981~91年シュツットガルト・ピアノトリオ、1992~97年バイディア・トリオ(クラリネット、チェロ、ピアノ)のメンバーとして活躍。1993~2001年ドイツ最古の室内楽音楽祭「ヒツァカー夏の音楽祭」の芸術監督を務める。

教育面では1971年ドイツ最年少の教授として、国立ザールブリュッケン音楽大学モリス・ジャンドロンの後継者となる。1987年国立ケルン音楽大学に移り、2002年からは副学長も兼任。

チャイコフスキー・コンクール(モスクワ)をはじめARD(ミュンヘン)、ジュネーブ、ライプツィヒ、パリ、シュヴェニンゲン等、数多くの国際コンクール審査員を歴任。

2009年5月、愛知県立芸術大学芸術創造センターのアーティスト・イン・レジデンスに招聘され、ケルン音楽大学の大学院生によるピアノトリオを伴い来日した。

楽器は1724年製のチェロ、ダヴィッド・テヒラー(ローマ)を使用。リサイタルで演奏を予定しているショパンの「チェロソナタ短調 Op.65」では、ヘンレ社版の監修にも携わっている。



加藤 美緒子 (ピアノ)

東京藝術大学ピアノ科卒業。安宅賞受賞。西ドイツ政府給費留学生として西ベルリン音楽大学卒業。その後ローマ、ロンドンで研鑽を積み、G.Puchelt, R.Silvestri, L.Kentnerに師事。マリア・カナルス国際音楽コンクール、ジュネーブ国際音楽コンクール、ルービンシュタイン国際ピアノコンクール等に入賞。日本、ドイツ、オーストリア、イタリア、イギリス等でリサイタル、オーケストラとの共演等の演奏活動をする。室内楽ではバルトークカルテット、マリオ・ブルネロ、アニー・シュナルヒ等とも共演。オーストリア滞在中はフォアアールベルク州立コンセルヴァトリーウムで講師を務める。愛知県立芸術大学教授。



白石 禮子 (ヴァイオリン)

桐朋高校を経てパリ国立高等音楽院及び同大学院首席卒業。13歳で全日本毎日学生音楽コンクール優勝、ロン＝ティボー国際コンクール最年少入賞、ヴェニアフスキ国際コンクール第3位他、受賞多数。13歳で名古屋フィルと協奏曲を共演以来、国内外でオーケストラと共演、リサイタルを行う傍ら、TV、NHK-FM、音楽祭等にも出演。ソニー主催によるデビューリサイタルでは「類い稀な才能」と絶賛された。繊細な美しい音色と鋭い洞察力に基づく深い音楽表現に定評がある。愛知県立芸術大学准教授。



桐山 建志 (ヴァイオリン)

東京藝術大学を経て同大学院修士課程修了。フランクフルト音楽大学卒業。1998年第12回古楽コンクール「山梨」第1位、栃木「蔵の街」音楽祭受賞。1999年ブルージュ国際古楽コンクール第1位。2005年、古楽コンクール「山梨」の審査員を務める。レコード芸術特選盤「シャコンヌ」(CAIL-728)を皮切りに多数のCDをリリース。現在、フェリス学院大学講師、「エルデーディ弦楽四重奏団」ヴィオラ奏者。愛知県立芸術大学准教授。



百武 由紀 (ヴィオラ)

東京藝術大学付属高校を経て同大学卒業及び大学院修了。井上武雄、浅妻文樹、ウィリアム・プリムローズ、セルジュ・コロワの各氏に師事。1999年まで東京都交響楽団に在籍し、首席奏者を務める。2002年、芸術祭参加リサイタル「20世紀フランス・ヴィオラ作品の音脈をたどって」を開催し好評を博す。国内外の音楽祭にゲストとして多数出演。現代曲の初演も多数手掛ける。2006年、新カルテット「クワトロ・ピアチェーリ」を結成。東京藝術大学・東京音楽大学講師、東京シンフォニエッタメンバー。愛知県立芸術大学教授。



天野 武子 (チェロ)

東京藝術大学を経て同大学大学院修士課程修了。在学中に安宅賞受賞。チェロを小沢弘、堀江泰氏、レーヌ・フラショー諸氏に、室内楽を浅妻文樹氏に師事。1975年~76年にかけてウィーンで研修、リヒャルト・クロチャック氏に師事。「東京アカデミカー・アンサンブル」後の「東京ハルモニア室内オーケストラ」のメンバーとして、「ルツェルン音楽祭」、「メニューヒン音楽祭」、「マントン音楽祭」等に招かれるなど、国内外で演奏活動を行う。名古屋フランス音楽研究会会員。愛知県立芸術大学教授、芸術創造センター長。

関連プログラムのご案内

■第43回音楽学部定期演奏会第1夜

10月5日(火) 開演19:00 愛知県芸術劇場コンサートホール 入場無料(要整理券)
 シューマン:チェロ協奏曲 イ短調 作品129
 指揮/チェロ:クラウス・カンギーサー
 管弦楽:愛知芸大弦楽アンサンブル・愛知県立芸術大学音楽学部管打楽器コース学生

■チェロ公開レッスン

第1回:10月1,2日 9:30~12:00 愛知県立芸術大学大合奏室
 第2回:10月7,8日 9:30~12:00 愛知県立芸術大学奏楽堂

■アーティストトーク

10月3日 13:30 「ショパン、シューマンのチェロ作品(仮)」 愛知県立芸術大学大合奏室

芸術創造センター